

総 論

満 点	60 点	目標得点	39 点	試験時間	60 分	偏差値	71
大問数	4	小問数	49				
【解答形式】		選択式	35/49 問	記述式	13/49 問	論述式	1/49 問
【問題難易度】		C	13/49 問	B	19/49 問	A	17/49 問

※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す

Topics

- 1：選択・正誤判定問題を中心に（大問3題）、記述および100字程度の論述（08年度には無かった論述問題が復活）から成る大問が1題の大問4題で構成。
- 2：西ヨーロッパ・中国・北アメリカといった受験世界史の中核を為す分野からの出題が目立つ。
- 3：例年通り、記述・論述問題は20世紀の現代史からの出題。特に今年度は細かい知識を問う難問が多い。

こんな力が求められる！

時代的には近現代、地理的には西ヨーロッパ、中国、北アメリカに問題が集中しているため、該当の箇所を授業や講習で扱う際には、テキストの空欄だけではなく右ページ部分の箇所も含めて知識量を蓄えておくことが必須となる。

参考図書

お茶ゼミテキスト、お茶ゼミ問題集、教科書、用語集、史料集・図説（地図が記載されているもの）

データ&全体傾向

[前年度(2008)合格者最低点（3科目）] 130.2点（得点率 65.1%）

[前年度(2008)受験者平均点（世界史）] 42.03点

全49問で構成される本問題のうち確実に得点すべき問題を全て正解し、合否を分ける問題で7割程度正解すると得点としては6割程度（36点前後）が見込まれる。もちろん日本史や数学といった他の選択科目の難易度や得点状況にもよるが6割という得点率は合格確実にはならないと考えた方がよい。従って、本学部を第一志望とする者は難問といわれる問題でもいくつかの正解が欲しいところである。例年、近現代史中心、西ヨーロッパ・中国・北アメリカ中心という傾向がはっきりしているため、この範囲に関しては早慶世界史のテキストの右ページも含めて知識量を増やしておく必要がある。さらに最難関大学の経済学部や商学部では世界史の知識に加え、政治経済の知識を要する問題も散見される。学校での政経の授業をおろそかにせず、近現代史の学習では政経の用語集を活用するのも望ましい。

大問別分析

【I】

予想配点	14 / 60 点	時間配分の目安	12 / 60 分
出題分野・テーマ	古代ギリシア・ローマ史		
出題形式	正誤・選択		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	・3月期①－2日目、3日目、4日目 ・西洋史前近代史5つのテーマ（夏期講習）		

●小問別難易度&解答のポイント等

問A（B：合否を分ける問題）

アクロポリス（神殿が建てられ各ポリスの中心部となる丘）とアゴラ（集会・裁判などポリスにおける諸活動が行われる広場）の違いを理解しているか。テキスト等に記載されている用語はその内容まで把握しておくこと。

問C（B：合否を分ける問題）

代議制とは国民の代表者（≠国民全員）が政治を行う制度のことである。従って直接民主政が展開されるペリクレス時代のアテネには合致しない。「代議制」という単語は教科書や用語集の見出し語としては登場しないが大学生になろうとする者として最低限知っておかなければならない言葉である。

現代文や公民などの授業で登場する一般常識としての日本語の語彙力も高めておきたい。

問E（C：難問）

これも世界史の知識に加え、日本語の語彙力が要求される。相対主義（絶対的な真理や価値は存在せず、同じ行為であっても状況によって善行と見なされる場合もあり、悪行と見なされる場合もあると考える立場）と普遍的（状況に関わらず全ての場合に当てはまるさま）という言葉の意味を知っていれば選択肢1と4は消去できる。問題は選択肢2と3の正誤判定であり、ソクラテス（前469頃～前399）、プラトン（前427～前347）、アリストテレス（前384～前322）といった古代ギリシアを代表する哲学者が民主政に批判的な立場であることを知っていたかが正解を導くポイントになる。彼らが生きた前5世紀末から前4世紀のアテネは扇動政治家（デマゴーゴス）により衆愚政へと陥っており、素人が政治や裁判を行う民主政の弱点が露骨に表面化した時期であった。

問G（B：合否を分ける問題）

アリストファネス（前450頃～前385頃）がアテネの喜劇作家として活動していた時期はペロポネソス戦争中に該当し、彼は戦争反対の立場からアテネとスパルタの婦人たちが性的ストライキで戦争を終結させるというストーリーの『女の平和』を創り上げた。

問I（B：合否を分ける問題）

問題文が要求しているヘレニズム時代とはアレクサンドロス大王の東方遠征開始（前334）からプトレマイオス朝エジプトの滅亡（前30）までを指す。一方、『アルマゲスト』の作者であるプトレマイオスはローマ帝国時代の2世紀に活躍し天動説を主張した人物である。

【II】

予想配点	14 / 60 点	時間配分の目安	12 / 60 分
出題分野・テーマ	中国における民衆反乱の歴史		
出題形式	正誤・選択		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	・3月期②－3日目、4日目 ・4月期－1回、3回 ・現代史（夏期講習）－2日目 ・10月期－2回、3回、4回 ・12月期－2回、3回、4回		

Benesse お茶の水ゼミナール

●小問別難易度&解答のポイント等

問A (B: 合否を分ける問題)

始皇帝の死後の翌年(よって選択肢1は誤り)に起こった陳勝・呉広の乱は秦朝の統治に反対する各地の農民反乱を誘発した。乱に際しての陳勝の言葉とされる「王侯将相いづくんぞ種あらんや」は実力次第で王や將軍の地位に昇りつめることが可能であるという意味を持ち、すでに滅亡している周王室や封建諸侯の現状を述べたものではない(よって選択肢2は誤り)。秦の滅亡後、台頭した劉邦と項羽の両者が垓下の戦いで雌雄を決し(よって選択肢3は誤り)、勝利した劉邦が天下統一に成功し、前漢の初代皇帝の座に就いた。

問B (B: 合否を分ける問題)

始皇帝の行った事柄として半両錢への統一や郡県制の採用や基本レベルなので選択肢2と3は容易に除外できる。彼が統一書体として篆書(小篆)を採用したことを確実に押さえていたかどうか。

問D (B: 合否を分ける問題)

張角の創始した太平道と張陵の創始した五斗米道は正確に識別できるようにしておくこと。間違っても選択肢2を選んではいけない。五斗米道は天師道とも呼ばれたこと、また太平道や五斗米道の影響を受けた道教は別名、新天師道であることも押さえておきたい。

問F (C: 難問)

黄巢の乱に関する知識としては反乱の中心人物である黄巢と王仙芝が塩の密売商人であったこと、反乱軍から離脱した朱全忠(離脱前の名は朱温)が907年に唐王朝を滅ぼす張本人であること、この乱に代表される唐末の混乱の中で貴族勢力が没落したことを知っていれば十分である。この設問は乱の最中に王仙芝が敗死し、この後に黄巢が自害することで乱が終息したことを知らなければ解けない問題であり難易度は高い。

問H (C: 難問)

選択肢1と2は容易に除外可能であるが、4の内容を確実に正しい内容であると自信を持って答えることのできる受験生は少ないであろう。解答のポイントは駅伝制というシステムが陸上における移動を円滑に行うためのシステムであることと、マルコ=ポーロが泉州から海路で帰国したことを理解しているかにかかっている。少なくとも3と4の二択にまでは絞っておきたい。

問I (B: 合否を分ける問題)

永嘉の乱は五胡の一つである匈奴が中心となって西晋を滅ぼす兵乱である。

問K (C: 難問)

三民主義の内容および中華民国成立から袁世凱に実権が移るまでの一連の流れを細かいレベルで理解していないと手が出ない難問。中華民国成立直後、正式な憲法が制定されるまでの暫定的措置として中華民国臨時約法が施行された。これは施行の前日に孫文に代わって臨時大総統に就任した袁世凱の権力を牽制する性質を持っていたため、袁世凱の権力拡大に伴い無力化していくこととなる。結果、孫文の掲げた三民主義の実現が完全に為されないまま皇帝袁世凱が誕生することとなった。

問L (B: 合否を分ける問題)

一見、難問に見えるが問題文から出題者が何を要求しているかを推測し、選択肢を吟味すれば何とかなる設問である。まず、第2次五ヶ年計画におけるスローガンが「大躍進」であることからこの二つのどちらかが正解でもう一方が誤りということは考えられないので選択肢3と4は除外できる。次に設問に該当する問題文本文の下線部を見ると「王朝の滅亡と民衆反乱との伝統的關係」とある。「王朝の滅亡⇨新国家の成立」と考えることができれば、農民(=民衆)の支持を得た中国土地法大綱が中華人民共和国の礎となっていく流れから正解を導き出すことができる。論理的思考力と消去法をフルに活用して得点しておきたい。

【Ⅲ】

予想配点	14 / 60 点	時間配分の目安	12 / 60 分
出題分野・テーマ	ヨーロッパにおける「17世紀の危機」		
出題形式	正誤・選択		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 6月期－1回、2回 ・ 西洋史前近代史5つのテーマ（夏期講習） ・ 9月期－3回 ・ 11月期－1回 			

●小問別難易度&解答のポイント等

問A（B：合否を分ける問題）

ピルグリム＝ファーザーズの北米到着は1620年のことである。年代まで覚えている受験生は少ないだろうしその必要もないが、少なくともエリザベス1世死後のステュアート朝時代の出来事であることは確実に押さえておく必要がある。これを機にテューダー朝時代とステュアート朝時代に起こった出来事それぞれ整理しておきたい。

問B（B：合否を分ける問題）

まず選択肢1と3を選んでいるようでは早稲田には受からない。2と4の二択に絞ってからがスタートラインである。ホップズが『リヴァイアサン』を著したのはステュアート朝時代の1651年であるがこれは細かい知識である。一方、テューダー朝時代に完成するイギリス絶対王政を根底から支えた功労者ジェントリが治安判事として無給で地方行政を担っていたことは早稲田を狙う受験生にとっては知らなければいけない事項である。

問D（B：合否を分ける問題）

航海法の内容は確実に押さえておくこと。オランダが覇権国家の座から転落することにも繋がる航海法は論述問題の指定語句として使用される可能性も高い。

問E（B：合否を分ける問題）

「イングランド銀行」という用語はやや細かいが消去法で正解までは十分にたどり着ける。

問F（B：合否を分ける問題）

4つの選択肢のうち2つの年代を知っておけば正解にはかなり近づくことができる。早慶レベルを狙う受験生はルイ14世の在位年代（1643～1715）を覚えておいた方がよい。この年代を直接問われることは少ないが、この手の年代並べ替え問題や正誤判定問題で得点に結びつくことがある。

問H（B：合否を分ける問題）

問F同様、年代並べ替え問題であるがこちらの方が解きやすい。間違っても選択肢3と4を選んではいけない。

問K（B：合否を分ける問題）

封建的特権の廃止を1789年の有償廃止と見なすか、1793年の無償廃止と見なすかで解答が変わるが、用語集や多くの教科書では1789年の有償廃止の方を「封建的特権の廃止」という用語で表現しているのでこれに準ずる。

【Ⅳ】

予想配点	18 / 60 点	時間配分の目安	24 / 60 分
出題分野・テーマ	戦間期のアメリカ合衆国		
出題形式	記述・論述 (100 字)		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	・現代史 (夏期講習) - 3 日目 ・文化史 (夏期講習) - 5 日目 ・アメリカ史 (冬期講習) - 2 日目		

●小問別難易度&解答のポイント等

空欄 2・4・5・6・7・8・10・11・12 (C : 難問)

非常に細かい知識あるいは歴史用語の見出し語としては教科書や用語集に載っていない一般的な語句を問う難問。空欄のまま終える受験生も多々いると思われる。

空欄 3 (B : 合否を分ける問題)

直前の「大量生産」という言葉がヒント。

空欄 9 (B : 合否を分ける問題)

テキストや教科書の補助として授業中に使用する図説 (史料集) に目を通す癖がついていれば解答可能かと思われる。

論述問題 (B : 合否を分ける問題)

昨今の世界的経済危機を反映して出題されたものと思われる。そのような出題者の意図を考えると、大量生産・大量消費を特徴とする 1920 年代の生活スタイルがその反動として 1929 年の世界恐慌の一因となったことを歴史的意義として記述する必要がある。